

IV 保育所実習(事前指導)について

平成27年度から幼保連携型認定こども園、小規模保育A・B型、事業所内保育事業も保育所と同様の実習先として認められ、保育所における保育は、基本的には「保育所保育指針」(平成29年3月31日厚生労働省告示117号)、幼保連携型認定こども園における保育は「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」(平成29年3月31日内閣府・文部科学省・厚生労働省告示第1号)に従って行われている。そのため、実習施設の種別が多様であることや地域の実情等について事前に説明し、実習が養成校での学びと保育現場(社会)との接点であることに留意しつつ、実習を通して主体的に学ぶという意識づけが重要となる。

また、養成校によっては、保育実習Iへの導入として事前に「見学実習」を課すなど、実習前の学習や準備をスムーズに進めることができるよう配慮しているところもある。

事前指導では、実習を行うにあたっての対外的な手続きと関連して、出勤簿の付け方(時刻記入や捺印)、欠席・遅刻・早退の際の連絡方法、自家用車使用の際の届、暴風警報の際の対応、自身がけがをしたり相手にけがをさせたりした時の保険適用、礼状の書き方など、対養成校及び対実習施設の双方において求められる適切な対応を学ぶことが求められる。

実習科目の履修については、養成校で独自に履修要件(既修得単位数、既修得科目等)を定めている場合もあり、あらかじめ実習指導者または担当課によってその要件を満たしているかどうかの確認が必要である。

1. 保育実習I(保育所実習)

(1) 保育実習I(保育所実習)の目的

保育実習Iは、保育所の生活を観察したり、参加したりしながら、子どもとの遊びやかかわりを通して乳幼児の発達と子ども理解を深める。さらに体験を通して、実習施設の役割や機能、保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。実習施設での学びが充実したものとなるように、種別によって施設の役割や子どもの年齢に応じた実習目標を設定し、また、実習に出る学年や時期によって実習目標のレベルを調整するなど、指導に当たっては保育実習Iの目的や意義、実習施設を十分理解して行うことが大切である。

その他、保育所保育指針や幼保連携型認定こども園教育・保育要領に照らしながら、健康安全への配慮、子育て支援等の実際についても学んでおくことが望まれる。

保育士養成課程の教科目の教授内容等について①

<科目名>

保育実習I(実習・4単位:保育所実習2単位・施設実習2単位)

<目標>

1. 保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。
2. 観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。
3. 既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。
4. 保育の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解する。

5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。

<保育所実習の内容>

1. 保育所の役割と機能
 - (1) 保育所における子どもの生活と保育士の援助や関わり
 - (2) 保育所保育指針に基づく保育の展開
2. 子どもの理解
 - (1) 子どもの観察とその記録による理解
 - (2) 子どもの発達過程の理解
 - (3) 子どもへの援助や関わり
3. 保育内容・保育環境
 - (1) 保育の計画に基づく保育内容
 - (2) 子どもの発達過程に応じた保育内容
 - (3) 子どもの生活や遊びと保育環境
 - (4) 子どもの健康と安全
4. 保育の計画・観察・記録
 - (1) 全体的な計画と指導計画及び評価の理解
 - (2) 記録に基づく省察・自己評価
5. 専門職としての保育士の役割と職業倫理
 - (1) 保育士の業務内容
 - (2) 職員間の役割分担や連携
 - (3) 保育士の役割と職業倫理

保育士養成課程の教科目の教授内容等について②

<科目名>

保育実習指導 I (演習・2単位)

<目標>

1. 保育実習の意義・目的を理解する。
2. 実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。
3. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。
4. 実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する。
5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や目標を明確にする。

<内容>

1. 保育実習の意義
 - (1) 実習の目的
 - (2) 実習の概要
2. 実習の内容と課題の明確化
 - (1) 実習の内容

(2) 実習の課題

3. 実習に際しての留意事項

(1) 子どもの人権と最善の利益の考慮

(2) プライバシーの保護と守秘義務

(3) 実習生としての心構え

4. 実習の計画と記録

(1) 実習における計画と実践

(2) 実習における観察、記録及び評価

5. 事後指導における実習の総括と課題の明確化

(1) 実習の総括と自己評価

(2) 課題の明確化

(2) 保育実習 I (保育所実習) の内容

実習前に学習・準備してきたことを現場で実際に自分の目を通して観察し、確認するとともに、担当保育士の指導のもと実際の保育活動に参加する。乳幼児とともに生活を営む中で、発達状況や遊び、活動を理解し、さらに一人ひとりに応じた援助や支援を行い、乳幼児理解を深める。子どもの前では保育士としての立場を忘れず、積極的に気配りをしながら参加していくよう指導が必要である。

1) 保育所の役割と機能

保育所における子どもの生活と遊びの全体像、1日の生活の流れ、保育士の支援を、体験を通して確認する。また、保育所保育指針に示されている内容と実際にどのように保育の展開と繋がっているのか理解を深める。

2) 子どもの理解

子どもを理解するためには、子どもの観察とその記録を通して、子どもの発達過程や子ども一人一人の発達をとらえることが重要であることを理解し、具体的な子どもの姿とそれに応じた保育士の個々の援助や関わりについて理解を深める。

3) 保育内容・保育環境

子どもの発達過程に応じた保育をするために、保育所の保育計画と関連させて考え、計画に基づいた保育内容が重要であることを理解する。また、子どもの生活や遊びを保障する保育環境、子どもの健康と安全に対する保育環境について把握する。

4) 保育の計画・観察・記録

日誌に、子どもの姿、保育士の姿、自ら行ったこと、考えたことなどを記録していく中で、自らの行動を反省し、評価する必要性を体験を通して知る。保育所の全体的な計画などに触れることで、保育はPDCAサイクルによって展開されていることを理解する。

5) 専門職としての保育士の役割と職業倫理

保育士の業務内容、職員間でどのような役割分担や連携を図っているのかを理解する。また、保育士

として求められる職業倫理について、実習中知り得た情報や秘密を守ることを体験を通して理解する。

1)～5) についての学びを深めるため、実習の段階の中で学生が取り組む内容を説明し、具体的なイメージを持つことができるように留意して、計画的に進められるよう促す必要がある。また、実習施設によっては、「参加実習」の後に「指導実習」(部分的な援助計画の立案・実践)を課すところもある。この場合は実習担当者の指示に従うよう指導する。

【見学・観察実習】

- ・実習施設の職員の役割や環境構成を理解する。
- ・一日の保育の流れと実習施設における子どもの行動を理解する。
- ・子どもの行動(個別及び集団)を観察する。
- ・緊急の際の避難経路を確認する。等

【参加実習】

- ・子どもと活動をともにして一日の生活の内容を体験する。
- ・子どもと生活をともにしながら保育士の補助的な立場をとり、保育士としての態度や技術等を習得する。特に、子どもの安全面、衛生面の配慮の仕方を学ぶ。
- ・養護と教育が一体的に行われることを理解する。
- ・保育士等の職務内容に応じた役割分担およびチームワークについて学ぶ。
- ・子どもの個人差について理解し、対応方法を習得する。特に発達過程や生活環境にともなう子どものニーズを理解し、その対応方法を学ぶ。
- ・子どもの保護者とのコミュニケーションの方法を学ぶ。
- ・家庭と地域の生活実態にふれて、子育てを支援するための連携の基礎を学ぶ。
- ・子どもの最善の利益を尊重する保育の方法を学ぶ。等

【指導実習(部分実習)】

- ・短時間の指導計画を担当保育士等の指導のもとに立案し、実践する。
- ・全体的な計画及び指導計画の意義を理解し、保育内容関連科目で習得したことを生かして実践する。特に、個人差に応じた保育を展開できるように心がける。等

(3) 保育実習 I (保育所実習) の実際

保育所実習には、保育実習 I (おおむね 10 日間) と保育実習 II (おおむね 10 日間) がある。ここでは、保育所で行われる保育実習 I について説明する。

保育実習 I では、観察実習、参加実習の形態で実施されることが多いが、場合によっては指導実習(部分実習)まで行われることもあるため、このことも想定して準備しておくべきことを学生に伝える。保育実習 I では、観察や参加実習をとおして、実習施設の機能・役割や子どもを理解することが主な内容となる。保育実習 I は保育実習 II の基礎になることを自覚させることも大切であろう。

2. 保育実習Ⅱ

(1) 保育実習Ⅱの目的

保育実習Ⅱでは、具体的な実践を通して、保育所の役割や機能、保育士の業務内容や職業倫理について理解を深める。また、保育実習Ⅰの経験を踏まえ、子どもの保育、子育て支援について総合的に学ぶ。さらに、保育の計画、実践、観察、記録、自己評価に実際に取り組み、理解を深める。そして、資格取得時までの自己の課題を明確にする。実習施設での学びが充実したものとなるように、指導に当たっては、既習の教科等での学びや保育実習Ⅰでの経験を踏まえて、総合的に保育実践が行えるように意識することが大切である。

保育士養成課程の教科目の教授内容等について①

<科目名>

保育実習Ⅱ（実習・2単位：保育所実習）

<目標>

1. 保育所の役割や機能について具体的な実践を通して理解を深める。
2. 子どもの観察や関わりの視点を明確にすることを通して保育の理解を深める。
3. 既習の教科や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、子どもの保育及び子育て支援について総合的に学ぶ。
4. 保育の計画・実践・観察・記録及び自己評価等について実際に取り組み、理解を深める。
5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。
6. 実習における自己の課題を明確化する。

<保育所実習の内容>

1. 保育所の役割や機能の具体的展開
 - (1) 養護と教育が一体となって行われる保育
 - (2) 保育所の社会的役割と責任
2. 観察に基づく保育の理解
 - (1) 子どもの心身の状態や活動の観察
 - (2) 保育士等の動きや実践の観察
 - (3) 保育所の生活の流れや展開の把握
3. 子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連携
 - (1) 環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育の理解
 - (2) 入所している子どもの保護者に対する子育て支援及び地域の保護者等に対する子育て支援
 - (3) 関係機関との連携
 - (4) 地域社会との連携
4. 指導計画の作成・実践・観察・記録・評価
 - (1) 全体的な計画に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価と保育の過程の理解
 - (2) 作成した指導計画に基づく保育実践と評価

- 5. 保育士の業務と職業倫理
 - (1) 多様な保育の展開と保育士の業務
 - (2) 多様な保育の展開と保育士の職業倫理
- 6. 自己の課題の明確化

保育士養成課程の教科目の教授内容等について②

<科目名>

保育実習指導Ⅱ(演習・1単位)

<目標>

1. 保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学ぶ。
2. 実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育の実践力を培う。
3. 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して学ぶ。
4. 保育士の専門性と職業倫理について理解する。
5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。

<保育所実習の内容>

1. 保育実習による総合的な学び
 - (1) 子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解
 - (2) 子どもの保育と保護者支援
2. 保育の実践力の育成
 - (1) 子ども(利用者)の状態に応じた適切な関わり
 - (2) 保育の知識・技術を生かした保育実践
3. 計画と観察、記録、自己評価
 - (1) 保育の全体計画に基づく具体的な計画と実践
 - (2) 保育の観察、記録、自己評価に基づく保育の改善
4. 保育士の専門性と職業倫理
5. 事後指導における実習の総括と評価
 - (1) 実習の総括と自己評価
 - (2) 課題の明確化

(2) 保育実習Ⅱの内容

保育実習Ⅰの経験を踏まえ、担当保育士の指導のもと、保育の実践を行う。保育の実践においては、知識・技能を総合的に活用することが求められるため、実習準備を十分に行い、実習に臨むよう指導が必要である。

1) 保育所の役割や機能

具体的な体験を通して、養護と教育が一体となって行われる保育について理解を深める。また、延長保育や障害児保育、子育て支援事業など、多様な保育も展開されていることを把握し、保育所の社会的役割・責任について理解を深める。

2) 保育の理解

保育にかかわりながら、さらに観察を通して子どもの心身の状態や活動、保育士等の実践について理解を深め、保育士としての視点を養う。

3) 子どもの保育・子育て支援の総合的な学び

養成校で学んだことや保育実習Ⅰの経験を踏まえ、環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育の実際に触れて理解を深める。また、子どもの保護者に対する子育て支援について、登所・降所時の保護者対応、おたよりや連絡帳などから理解を深める。さらに、地域の保護者等に対する子育て支援の在り方、関係機関や地域社会との連携について、実際にどのようなことが行われているのかを学ぶ。

4) 保育実践・評価

保育の全体的な計画を踏まえた指導計画を作成・実践・省察・評価をし、保育の過程を具体的に理解する。その一部として、自ら作成した指導計画に基づく保育実践と評価を行い、理解を深める。

5) 保育士の業務・職業倫理

実際の保育実践と結びつけたかたちで、さまざまな保育の展開にともなう保育士の業務や、全国保育士会「全国保育士会倫理綱領」を参照しながら、職業倫理について具体的に理解する。

6) 事故の課題を明確化

実習を振り返り、保育士として必要な知識・技能の習得状況を評価し、保育士資格を取得するために自分に求められる課題を明確にする。

保育実習Ⅱでは、実践を通して保育を総合的に理解することが求められる。①～⑥についての学びを深めるためにも、保育実践課題の表面的な成否のみに実習生の関心が焦点化されることのないように、全体の保育計画の理解や子ども理解、担当保育士とのコミュニケーションなど、実践までの過程を大切にするとともに、実践を行った後の自身の変化への気づきや自己課題の設定の視点なども丁寧に指導する。

(3) 保育実習Ⅱの実際

保育実習Ⅱは、指導実習(部分実習及び責任実習)が中心となるが、これらは何よりも保育実習Ⅰでの学びの上に実施されることを学生に理解させておかねばならない。場合によっては、保育実習Ⅰで残された課題を保育実習Ⅱで克服していくことも求められるであろう。部分実習では、1日の保育をいくつかの部分に区切り、学生が責任をもって保育実践していかなければならないことを伝える。実践が想定される部分実習としては、朝の会や帰りの会、午睡前の活動などである。そして、部分実習での保育実践を終えて、最終的に半日あるいは一日の保育の全てが学生自身に任せられる責任実習が実施される。そのため、自ら保育実践について、指導案を作成し、これに基づいた実践を行っていく。責任実習における中心活動についても自ら考える力が必要となる。

保育所における1日の生活の流れ(3歳以上児)の例を下記にあげておく。

時間	子どもの活動
7:00	登園、自由遊び
9:45	朝の会
10:00	クラス活動
11:30	昼食
13:00	午睡
15:00	起床
15:30	おやつ
16:00	帰りの会、自由遊び
18:00	延長保育

なお、上記内容では同一の実習施設において保育実習ⅠとⅡが実施されることを前提に述べてきたが、必ずしも同一の実習施設とは限らない。また実習内容については保育所の指導方針によってばらつきがあることも学生に伝えておくとうよいであろう。

3. 評価票について

保育所実習の評価票については、標準的なものを示すのは難しいため、以下にひな形をあげておく。

【コラム】小規模保育

子ども・子育て支援新制度が2015年から施行され、日本の保育制度に大きな変更がもたらされた。ここで取り上げる小規模保育事業もその一つである。保護者のさまざまな保育ニーズに対応していくために制度化された。これまで、保育実習における実習施設としてはいわゆる認可保育所しか認められていなかったが、保育実習実施基準等が改正され、小規模保育事業での実習が認められることになった。

小規模保育事業はA型、B型、C型があるが、これらのうち、A型とB型での保育所実習が認められる。A型もB型も保育定員は6名から19名以下とされ、A型の職員はすべて保育士、B型の職員は1/2以上が保育士でなくてはならない。3歳未満児のみの保育となっているのも大きな特徴であり、これまでの保育所とはまた違う形で、小規模ならではの保育を実施していることが考えられる。そのため、実習生は、この保育の特徴を意識した実習準備を行うことが求められる。

○実習評価票のひな形(案)

年度 保育実習 I (保育所) 評価票

実習生	学籍番号				氏 名
施設名称					施 設 長 印
					主任保育士 印
					指導保育士 印
実習期間	平成 年 月 日 () ~ 平成 年 月 日 () (計 日)				
勤務状況	出勤 回	欠勤 回	遅刻 回	早退 回	備考
項 目	評価の内容		評価		所見(備考)
態 度	意欲・積極性		5・4・3・2・1		
	礼儀		5・4・3・2・1		
	責任感		5・4・3・2・1		
	協調性		5・4・3・2・1		
知識・技能・技術	子ども理解		5・4・3・2・1		
	保育所の理解		5・4・3・2・1		
	環境構成		5・4・3・2・1		
	職業倫理の理解		5・4・3・2・1		
	省察		5・4・3・2・1		
	保育実践		5・4・3・2・1		
	指導計画の理解		5・4・3・2・1		
	実習記録		5・4・3・2・1		
そ の 他			5・4・3・2・1		
			5・4・3・2・1		
総 合 所 見					

年度 保育実習Ⅱ (保育所) 評価票

実習生	学籍番号				氏名
施設名称					施設長 印
					主任保育士 印
					指導保育士 印
実習期間	平成 年 月 日 () ~ 平成 年 月 日 () (計 日)				
勤務状況	出勤 回	欠勤 回	遅刻 回	早退 回	備考
項目	評価の内容		評価		所見(備考)
態 度	意欲・積極性		5・4・3・2・1		
	礼儀		5・4・3・2・1		
	責任感		5・4・3・2・1		
	協調性		5・4・3・2・1		
知識・技能・技術	子ども理解		5・4・3・2・1		
	保育所の理解		5・4・3・2・1		
	指導案の理解		5・4・3・2・1		
	職業倫理の理解		5・4・3・2・1		
	実習意義の理解		5・4・3・2・1		
	省察		5・4・3・2・1		
	保育実践		5・4・3・2・1		
	実習記録		5・4・3・2・1		
その他			5・4・3・2・1		
			5・4・3・2・1		
総合所見					